

# 素材生産事業者の皆さん、自分でナラ枯れ被害の予防・減少対策を行いませんか？

～簡単にできる「おとり丸太トラップ法」による「ナラ枯れ対策」～

令和5年5月作成

- ・ナラ枯れ被害が拡大し、ナラ類の資源減少が危惧されています。
- ・飯のタネを守るため、**自分でできるところからナラ枯れの防除に取り組みましょう。**

## 1 おとり丸太トラップ法とは

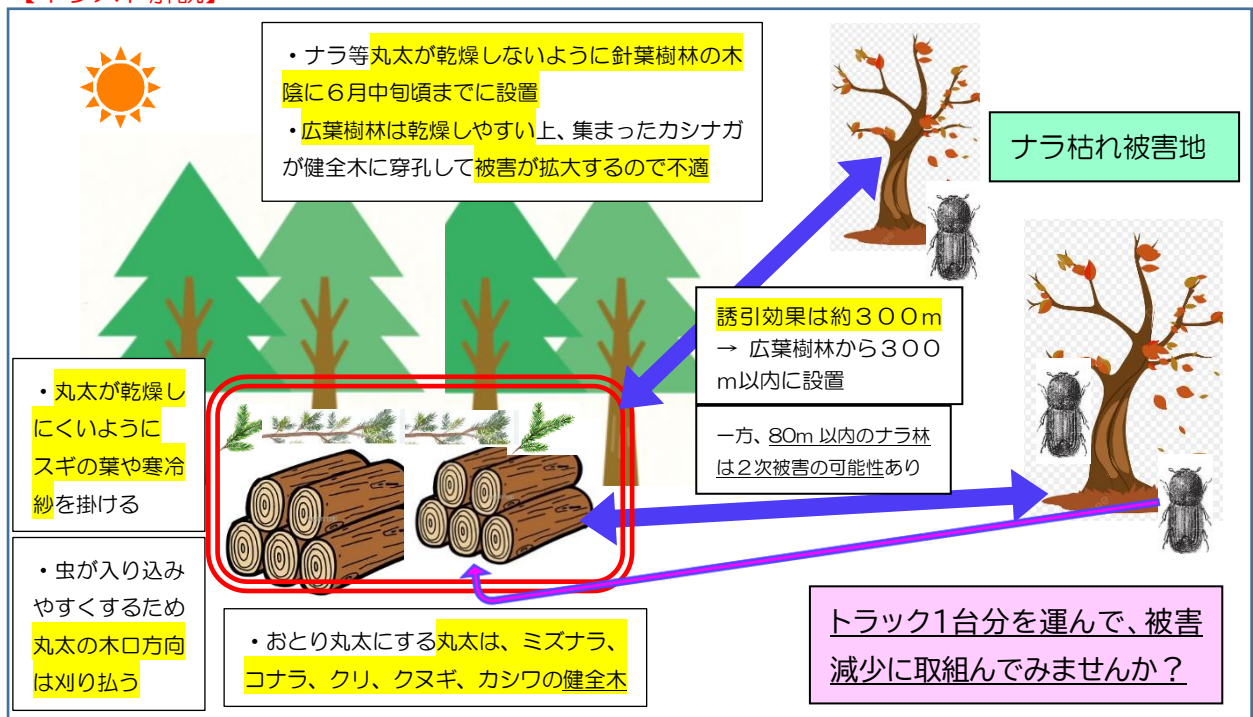
ナラ類等を枯死させるナラ菌（通称）を伝播するカシナガクイムシ（以下「カシナガ」という）の生息密度が高い地域においてカシナガを丸太に誘引、捕獲・殺虫する手法。

健全木を伐倒、玉切りした際に丸太から出る匂い成分（カイロモン）と合成フェロモンを利用し、カシナガを大量に誘引したのち、破砕または焼却処理を行ってカシナガの幼虫を物理的に殺虫し、生息密度を低下させることにより被害を減少させる防除法。

## 2 実施方法

|   |    | 作業内容   | ポイント  |
|---|----|--|---|
| 春 | いつ | 5～6月頃に、  | カシナガの羽化脱出が始まる6月中旬までに完了。設置時期が早すぎると丸太が乾燥するので注意！                           |
| イ | どこ | ナラ枯れ被害地内の道路そばの針葉樹林内において、                                 | 誘引効果は中害（複数本がまとまった状態での枯れの発生）地域で半径 300 m 程度とされている。                        |
| ウ | 何を | 健全なナラ材等（1カ所当たり約 20 m <sup>3</sup> 若しくは <b>トラック1台分</b> ）を | 標準的な仕様では、約 20 m <sup>3</sup> の太めの材を使用することとなっていますが、細めで、トラック1台分でも、捕獲できます。 |
| エ | どう | はい積みし、丸太の乾燥防止のためスギの葉や寒冷紗で被覆 ⇒ <b>おとり丸太</b>               | 丸太が乾燥するとカイロモンの放出が弱まり、誘引効果が落ちるので被覆は必須！                                   |
| 夏 |    | ≪夏の間、カシナガがおとり丸太に穿孔します。繁殖することもあり。≫                        |   |
| 秋 | どう | 10月以降に、おとり丸太をチップ工場に運んでチップ化                               | 材内部にいるカシナガを根こそぎ捕殺！  |

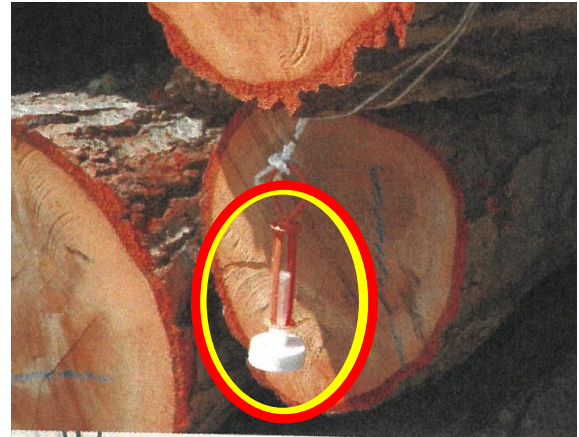
### 【イラスト解説】



### 3 宮古・岩泉管内での設置・実証の事例



【①R4.5.27 設置状況 岩泉町小本】



【②同左 誘引剤 合成フェロモン(かガ コール)設置】

※かガ コール1本当たり：税込@7,700円×2本/箇所



カシナガ穿孔による木くずが発生

【③同上 R4.8.4 のおとり丸太内の状況】



【④穿孔数の調査】

#### 結果【実証効果】

おとり丸太1m当り：約2,000頭の穿孔数。⇒約2.7本分のナラ等を保全(750頭/本換算)。

※枯死木1本当りのカシナガキクイムシ個体数 ⇒ 山形県調査：1,000頭/本。青森県調査：500頭/本。

よって、

- TWトラック1台(5m)のおとり丸太 ⇒ 13.5本分のナラ等を保全。
- 25t車1台(13.5m)のおとり丸太 ⇒ 36.5本分のナラ等を保全。

#### 4 メリットとデメリット

##### ① メリット

- カシナガの生息密度が低下することによりナラ枯れ被害が抑えられ、将来的な広葉樹産業の継続に貢献できる。⇒森林保全の社会貢献活動(CSR)として事業者のPRへの活用も可能。
- おとり丸太トラップ法は森林病害虫頭駆除事業の補助対象となっているので、市町村と連携して実施することにより、収入面でのデメリットが解消される。

##### ② デメリット

- おとり丸太の設置及び撤去にコストがかかる上、おとり丸太の重量は減少するため販売収入が減少する。

宮古農林振興センター林務室  
林業普及指導員